

# インタビュー 「明日を拓く」

第246回

ゲスト

日本遊技関連事業協会

# 福山裕治副会長

聞き手=「日遊協」編集部

遊技業界の広報の在り方などを熱っぽく語る福山裕治副会長

## 業界にとって重要な 広報体制の一本化

——福山さんが6月18日の定時総会で副会長に就任してもう半年たちました。コロナ禍のなか、副会長という重責を担うことになったのですが、そのいきさつをお聞かせください。

**福山副会長(以下、敬称略)** 庄司前

会長から「新しい広報の形づくりをしていきたいので協力してほしい」という依頼があり、副会長に指名されました。西村副会長(当時)も「業界の広報を一から考えていく必要性がある」としきりにおっしゃっていました。

パチンコ・パチスロ産業21世紀会でも同様に、広報窓口一本化の考えが出ていました。私は今回の副会長就任以前から、広報調査委員会の委員長という立場で、業界の広報を専門にやってきました。コロナ禍のなかで業界の広報体制を一本化して対策をつくっていく必要があるというのは、私も常々思っていたことです。

——8月には庄司前会長に代わって、新しく西村拓郎会長が誕生しました。新会長は「日遊協の在り方・改革PT」に力を入れ、精力的に行動しています。福山副会長も相当、汗を流していますね。

**福山** 西村会長は就任前から、「遊技産業新経営者会議」と「日遊協の在り

# 西村会長が目指す改革を 広報担当として支えたい

今回のゲストは日遊協の福山裕治副会長です。6月の通常総会で理事から昇任し、西村拓郎会長を支え、精力的に活動しています。コロナ禍のネガティブ報道で、業界は広報の重要性を再認識させられました。2010年から日遊協広報調査委員会の委員長を務めている同副会長に、広報活動の在り方や業界が抱える諸問題について語ってもらいました。

「方・改革PT」のリーダーとして動くなど、改革の中心的存在でした。21世紀会で、不公正な報道や情報配信に対応できるような広報対策の組織体制をつくりたい、という話が出た時、協力を要請されました。その後、8月6日には西村リーダーが7代目の日遊協会長となり、「在り方・改革PT」と一緒に活動するなかで、私は主に広報担当の立場でバックアップ

## 安心してバトンを 新富新支部長には

——2期4年務めてきた九州支部長の座は、10月に新富雅哉さんにバトンタッチしました。思い切った若返りですね。

福山 新富新支部長は36歳です。若

い会員の方がこれから日遊協の活動に加わってくれるという期待もありますし、今後5年10年先を見据えて任せていけるのではないか、九州支部の思いが受け継がれているのではないかと考えており、明るい未来に向かっていると感じています。九州支部の支部長は伝統的に2期4年で交代します。九州支部30年の歴史の中でも私が7代目、新富くんが8代目ということになります。立ち上げの時

の支部長は現在の金海(龍海)相談役で、当時39歳でした。また、岩見(吉朗)相談役が支部長だったときも40代前半でした。30年前の九州支部の立ち上げメンバーは、30代後半から40代前半が中心なんです。今回の人事

——西村会長は7支部の運営方法を見直したいと考えています。九州支部は他団体との交流も重ねているし、支部活動にも活気がある。本部への発信力もあり、何か決めたらすぐやるなという印象

ふくやま ゆうじ  
1963年生まれ。福岡県北九州市出身。85年(株)フェイスグループ入社。91年取締役就任。2009年早稲田大学大学院情報生産システム研究科修士課程修了。

11年同社取締役副社長。10年日遊協広報調査委員会委員長、15年日遊協理事、16年日遊協九州支部支部長、20年日遊協副会長。

## 先輩たちの「熱」を 若手が肌で感じる

も決して若返りというわけではありません。



——西村会長は7支部の運営方法を見直したいと考えています。九州支部は他団体との交流も重ねているし、支部活動にも活気がある。本部への発信力もあり、何か決めたらすぐやるなという印象があります。

福山 確かに声に出してから行動に移すのは非常に速いですね。今年はコロナの影響であまりできていないのですが、毎回、執行部会議のあとは懇親会を開いて、会議には参加していない諸先輩方も来ていただいています。そこでは、会議で聞く機会がないような九州支部立ち上げの話や歴史を語つてもらい、若手らが直接、その「熱」を、肌で感じれるようにしていま

す。また、福岡県遊協の遊技会館に日遊協九州支部も入居している関係で、実際の距離も非常に近いんです。福岡県遊協の平岡聖教理事長とは年齢も近いですね。また勉強会、オープ

協の括りではなく、九州のパチンコ、パチスロ産業全体として行っています。我々が、横つながりも幅広く持つていて、クツーションとなつて若手の話を相談役に伝えたり、逆に、相談役から話をされたことを、かみ砕いて若手に話したり、そうしたことが風通しの良い組織になつてている大きな要素だと思います。

#### ——いい意味の飲酒外交ですか。

**福山** お酒が良いというのは九州支部だけではなく、広報調査委員会でもですね。若手を中心にはじめ、委員会の後もできるだけ、お酒の会を開くようになっています。担当役員も参加してもらっていました。そこでの意見が、広報調査委員会の運営などのヒントになつていています。エッセー・絵手紙・コンクールや女性活躍推進アンケートなど、懇親会の中でいろんな企画のアイデアが出てくる。また広報担当者フォーラムもそうですし、過去には、パチンコ雑誌メディア交流会なども懇親会の中で出てきたアイデアです。会議では言いにくいことを、ざつくばらんに話せることが大きいですね。

——福山さんといえば広報調査委員会ですが、2010年に委員長に就任して10年間携わっていますが、振り返っていただくとどうでしょう。

**福山** 2015年に一度、広報誌の

インタビューを受けていますが、そこで5年間の折り返しを振り返っています。今回は10年間の振り返りとなるわけですが、その5年前のインタビューと今回のインタビューで、実は同じことを話しています。業界の中の流れとしては、こういう大筋としての状況はあまり変わっていないということなんでしょう。しか

し、世の中は大きく変わっているので、我々がどう対応していくかではないかと思います。デジタル化も進んでいて、今、西村会長から日遊協

——世の中は大きく変わっているのに対応していくかではあります。デジタル化も進んでいます。担当役員も参加してもらっていました。そこでの意見が、広報調査委員会の運営などのヒントになつていています。エッセー・絵手紙・コンクールや女性活躍推進アンケートなど、懇親会の中でいろんな企画のアイデアが出てくる。また広報担当者フォーラムもそうですし、過去には、パチンコ雑誌メディア交流会なども懇親会の中で出てきたアイデアです。会議では言いにくいことを、ざつくばらんに話せることが大きいですね。

——福山さんといえども、お酒が良いのは事実であります。私は、いくら時代が変わっても、代の変化のおかげでかなり取組みやすくなっていますね。

## 大震災の直後にも ネガティブ報道が

——コロナがらみでは、営業自粛期間中に、いわゆるネガティブ報道にさらされました。どのように受け止めていますか。

**福山** 2011年の東日本大震災

の時からこの業界は伝聞報道から始まつてネガティブ報道はあつたと思います。その時、委員会でもお話をさせていただいたのが「事実に基づいた広報をやつていいこう」ということです。世の中には情報が氾濫しています。それが事実かどうか、有益かどうかということを念頭において広報活動を行うことが重要です。広報調査委員会は、日遊協広報誌の編集会議にも参加させていただいています。日遊協

——日遊協は女性活躍推進に力を入れていますが、女性活躍推進アンケート調査では管理職の候補となる女性がいないという結果がずっとトップになっています。

**福山** 日遊協には現在、理事や役員

に女性はいないが、広報調査委員会や人材育成委員会などで活躍している女性がたくさんいます。九州は九州男児といって固いイメージがありますが、この5年間、女性活躍推進フォーラムを開催しています。3日あるいは4日がかりで遠方から来てくれる参加者も多いんです。成果も非常に大きいと聞いています。九州委員会のメンバーが参加してくれました。今年は九州での開催は残念ながら中止になりましたが、その代わり

それに対して紙媒体は、確認を重ねてそれが事実で間違いない内容であるというところまで突き詰めて情報を出すことを使命としてやっています。私は、いくら時代が変わっても、記録、歴史をつくるという点から、正確な情報、有益な情報というの是正して忠実であることを使命にしていかなければならぬと思っています。

## 女性の活躍の場を 広げていく使命が



大阪市の天神祭でくつろぐ福山副会長

**福山** コロナの拡大は、全国的にみても季節や環境的な要因があると思つてきていますか。

州からは毎回平均13人が参加して、参加者も刺激になつていて、「社内に持ち帰つていろいろな女性の活躍の場を作つていきたい」という考えを持った方が多くいらっしゃいました。ただ、広報調査委員会が調査した「女性活躍推進アンケート」をみると、社員数となると女性の比率が非常に少い。正社員でも15%、従業員全体でも37・6%です。比率的には少ないのですが、ホールで働く女性スタッフは非常に多い。我々もホールで一所懸命に働く女性の活き活きとした姿や笑顔を見ていると、こうした女性が活躍できる場を今後も、提供していくかなればならないと思います。アンケート調査をこれから10年も続けていけば、女性の割合もさらに増えると思いますし、そのようになるために取り組んでいくのが使命だと思います。

## 「想定力」が必要

——ホール経営者としてコロナ禍での営業状況を教えてください。九州では感染者数が急激に上がつたり下がつたりしました。現在、客足は戻つてきていますか。

——コロナの拡大は、全国的にみても季節や環境的な要因があると思つて立ち向かっていくかということ

にオンラインで実施しています。九州からも毎回平均13人が参加して、参加者も刺激になつていて、「社内に持ち帰つていろいろな女性の活躍の場を作つていきたい」という考えを持った方が多くいらっしゃいました。ただ、広報調査委員会が調査した「女性活躍推進アンケート」をみると、社員数となると女性の比率が非常に少い。正社員でも15%、従業員全体でも37・6%です。比率的には少ないのですが、ホールで働く女性スタッフは非常に多い。我々もホールで

一所懸命に働く女性の活き活きとした姿や笑顔を見ていると、こうした女性が活躍できる場を今後も、提供していくかなればならないと思います。アンケート調査をこれから10年も続けていけば、女性の割合もさらに増えると思いますし、そのようになるために取り組んでいくのが使命だと思います。

——社員の方には日頃、どんなことをおっしゃつてあるんですか。

**福山** リスクというのは「確率」だと思っています。今が良いから、といふことではなくて、悪い時も良い時も当然あるわけで。経営者はみんなそうですが、最悪のリスクを常に考えます。同じ感覚を社員のみなさんに持つてもらうというのは、非常に難しいことだと思います。リスクをどういうふうに受け止めていくしかないとつています。良い時には当然、周りから不満などは聞かれません。世の中の景気が悪くなつて初めて不安を抱える。その際、「想定力」というのが何より大事ですし、リスクを回避す

にオンラインで実施しています。九州からも毎回平均13人が参加して、参加者も刺激になつていて、「社内に持ち帰つていろいろな女性の活躍の場を作つていきたい」という考えを持った方が多くいらっしゃいました。ただ、広報調査委員会が調査した「女性活躍推進アンケート」をみると、社員数となると女性の比率が非常に少い。正社員でも15%、従業員全体でも37・6%です。比率的には少ないのですが、ホールで

一所懸命に働く女性の活き活きとした姿や笑顔を見ていると、こうした女性が活躍できる場を今後も、提供していくかなればならないと思います。アンケート調査をこれから10年も続けていけば、女性の割合もさらに増えると思いますし、そのようになるために取り組んでいくのが使命だと思います。

## 業界の意識の高さ 「誇りに思います」



2016年、恩師の和多田淳三教授（右から2人目）の退官を研究室の同窓生と惜しむ福山副会長（左端）

——パチンコ店でクラスターは発生していないません。メディアも社会もパンコにに対する見方が多少変わっていません。メディアも社会もパンコにに対する見方が多少変わつたように思いますが、「3密対策」を始め、いろいろなことで経営者の方は相当な神経を使っているのではないかでしょうか。

**福山** 一番、大きかったのは4月の緊急事態宣言です。特措法に従つて99%のホールが休業要請に従つてたのですが、ホール経営者のみなさんが気付かれたのは、「コロナ禍で誰を守つていくのか」ということではないでしょうか。お客様であり、従業員であり、当然、大事な家族であり、もちろん自分自身も守らなければならぬ。誰を守らなければならぬかという捉え方のなかで、「自粛」と向き合つてきたと思います。明日の営業が成り立たなければ会社の存続も危ういというのは当然わかつた上で、大半のホールが、営業自粛を行つた。業界の意識の高さは、誇りに思います。コロナ禍での営業体制はどうあるべきか、自粛中に整理できただとすることで、ピンチをチャンスづくりやつていくことも大事かな

と思います。

問題もそうです。全国遊技場青年部連合会が制作した、パチンコホールの換気能力の実証実験の映像では、10分で空気の入替ができるということが明らかになりました。他の業界ではなかなか見当たりません。また、タバコが吸えないホールは魅力がないと言われていますが、4月から店内原則禁煙を始めた店を見ていて気がついたのは、お客様にプラスによることも当然あるし、働いているスタッフも健康上プラスになっているということです。タバコを吸わない新卒者も多いんです。働き易い環境を整えたことを前向きに捉えるならば、業界にとってプラスに働いていくことになります。要は、「ネガティブ」を、どう「ポジティブ」にもつていかれるか、ということです。広報もそうですが、ネガティブ情報に終始するのではなく、ポジティブな情報もあるわけで、それをバランス良く正確に表に出せれば、お客様もホール営業を安心と捉えていただけて、またリピーターになってくれるのではないかと思います。

## 危機的な状況下である面では恩恵も

——「レジャー白書2020」が刊行され、市場規模は7000億円減の2兆円、参加人口は過去最低の89

万人と、業界にとって冷たい数字が並んだわけですが、その感想をお聞かせください。

**福山** あまり悲観的に捉えず、セーフティネットや旧規則機の経過措置の1年延長など、法的な部分で我々の業界が恩恵を受けていないわけではありません。危機的なこの状況にどう立ち向かっていくか知恵を絞つていかなければなりません。近い将来、管理遊技機やメダルレス機も出来てくるでしょうし、環境が変わるなかで我々が身の丈にあつた行動をどう思つておられるか、経営もそれにあつた事業形態をどう作つていけるのか、いろいろ知恵を出していけば業界がすぐになくなる、ということはないと思いません、この状況に合わせた経営をどう構築するかが、今後の課題だと思っています。

——公営競技の売上は全体的に7・6%アップしています。今年に入つ

てからは無観客で場外発売もできないうちで、売上を伸ばしている。これはネット投票が信じられないくらい右肩上がりになっていることが要因になります。パチンコ店に行くのが不安だという人が、もしかしたら公営競技のネット投票に流れたかもしれません。今後ますますネット投票は増えていくと思うのですが、これはキヤッショレス化の恩恵を受けた典型的といえます。パチンコとも深く関わるところですが、どう考えますか。

**福山** 環境は人間の力だけではどうにもなりません。しかし、それが人災にならないようにするためには、歴史を読み解く必要があると思います。デジタル、ということについても、この業界がどのような歴史を辿つて、どのように歩んで来たかをしつかり見つめなおす必要があると考えます。今、思つていることは「パチンコ」という遊技は、やはりデジタルではないということです。人と人とが接してサービスを提供する形でこれまできました。残念ながらコロナによつて人から人へのサービスというのは難しくなり、なかには一台置きに営業せざるを得ない状況もありました。しかし今は、新型コロナウイ



ルス感染症の知識が深まりましたし、パチンコ店の換気が良いことも実証できました。今が、新たな日常だという捉え方の中で、パチンコ自体の遊技手法は時代に合わせて変わっています。これからもいろいろな選択肢が出でてくる中で、それに合わせて業態を変化させていくべきでしょう。次世代遊技機の形も徐々に見え始めています。我々がどう順応していくかが、どう思つておられるか、経営もそれにあつた事業形態をどう作つていけるのか、いろいろ知恵を出していけば業界がすぐになくなる、ということはないと思いません、この状況に合わせた経営をどう構築するかが、今後の課題だと思っています。

——今年、コロナを除いて一番大きな課題は21世紀会決議に伴う高射幸性遊技機などの計画的撤去問題です。誓約書を提出しているホールがきちんと履行しているかどうかを確認する「通報・確認システム」の運用も始まっています。中古機流通協議会では最長120日確認紙の発給停止措置を決めている。この問題につい

てどう思いますか。

**福山** これは6団体代表者会議の協議で出た話を21世紀会の誓約書として提出した経緯があります。我々自身の自主的な規制は、これまでの業界の歴史がそうであった通り、守るものは守っていかなければならぬというスタンスは変わらない。当初から、業界の将来のためにやつていくと約束をしたのだから、守るのが大前提です。ホール4団体が当事者として、力を合わせてそちらに向かっている。これはいずれ形になつて表れると思います。

## 九州が先頭に立ち ノーモア不法投棄

——倉庫に残っている遊技機を含めて計画的撤去を進めていかなければなりませんが、旧規則機を加えると、300万台とも言われる膨大な数の廃棄台があると言われています。これらを適正に処理できるのか、野積みを恐れる声もあります。この問題については、九州支部が力を入れていますね。

**福山** 各団体からそういう意見をもらつて、日遊協、九遊商、回胴九州支部、遊運協支部が11月16日に業界誌を集めて記者会見を開きました。支部長が中心になり、支部のユーコ

ーリプロの金海役員らが何度も協議して計画を練りました。これはホー

ムページにもアップしており、廃棄に関する流れを説明し、「九州から遊技機の不法投棄を無くそう」をスロー

ガンに進めていますので、全国的な展開に結び付くのではないかと考えています。日遊協には支部運営活性化議があり、その中でも議論されていくと思います。リーダーの新富支部長は、九遊連青年部の部会長として活躍してきた経験もありますし、彼と同世代がホールの実質的な運営をしている。その若手たちが立ち上がり、不法投棄を無くそうとしている。倉庫にある遊技機の実態を把握し、廃棄を計画的に進めていくことが業界にとっては大命題です。

——不法投棄はメディアの「写真絵柄」としては一番インパクトが強い。いまはドローンで簡単に空から撮影できます。

**福山** ユーコーリプロの金海基浩常務は日遊協九州支部の役員を務めていました。今回、ユーコーが日遊協に再入会しましたが、同社の金海龍海・九州支部相談役も廃棄台の問題はずつと危惧していました。その考えに賛同し、一歩踏み込んでいけるのは大きかつたと思います。日遊協の役員が揃っているので、九州が先頭に立つ取り組んでいけると思います。

## 大学院での経験が 日遊協の活動の源

——福山副会長には、日遊協広報誌の「委員長からのメールです」のコナーに何度も登場してもらっています。コラムには「学究肌」の一面がうかがえるのですが。

**福山** 実は、社会人になつてから大学院に入ったんです。2006年、風適法の一部改正の際、みなし機撤去や賞品問題などで、ホールが非常に苦しめられていました。2007年10月から日遊協の活動に参加しましたが、業界のことを知らなさすぎて、業界の歴史とか、法的な問題点、これから課題、全く情報として掴んでおらずジレンマを感じました。もう一度、業界のことを勉強したいという思いがあつて、2007年に北九州市にキャンパスがある早稲田大学大学院情報生産システム研究科に入学しました。修士課程なので2年間勉強しました。「パチンコの勉強をしたい」といつたら取り合つてくれないのでないかと思つたんですが、担当教授に業界の売上規模の話をして、従業員一人当たりの生産能力を計算していただいたら、「業界全体の規模は社会的なイメージ以上に大きな存在だよ」と興味を示してくれました。キャンパスでは一回り以上年下の人と接することで、非

常に刺激になりました。

——2年間勉強した時に、いろいろな構想が生まれたのですか。

**福山** 大学院での経験が日遊協の活動の源、大きなきっかけとなっていますね。アンケートなど、委員のみんなの発想をまとめることができているのだと思います。担当教授からは「海外では、社会人が大学院で勉強するのが当たり前。経営者なら必ずやる」といつていただき、入学を後押ししてもらいました。研究室に入るために単位を取らなければならぬので、最初の6か月間は週に3日のペースで大学院に通っていました。教授にも恵まれました。もちろん、会社の代表の理解もありましたね。1年以上は大学に通っていた状態でしたから。もう退任されていますが、担当教授には感謝しています。

——締めくくりに、これから日遊協の在り方について、お聞かせください。

**福山** それについて、私の考えは一貫しています。パチンコ、パチスロという産業を次世代に引き継ぐということが使命だと思っています。横断的組織で、これだけの加盟団体が一つの組織としてまとまっているのは日遊協しかありません。次の世代に向けて、みんなで切磋琢磨していくことが日遊協の重要な役割だと思います。